

大学生におけるネット上の“つながり”に関する研究（5）

ソーシャルメディア上のストレスイベントに関する面接調査

○中山 真¹・吉田俊和²

(¹鈴鹿短期大学・²岐阜聖徳学園大学)

キーワード：ソーシャルメディア，対人関係，ストレス関連成長

Interpersonal linkage through social media among undergraduate students (5): An interview survey of stress events on social media

Makoto NAKAYAMA¹ and Toshikazu YOSHIDA²

(¹Suzuka Junior College, ²Gifu Shotoku Gakuen University)

Key Words: Social media, Interpersonal, Stress-related growth

目 的

近年、ソーシャルメディアを利用したコミュニケーションが活発になっている（総務省，2011）。ソーシャルメディア（以下，SM）は、大学新入生などの友人関係の形成・維持・発展にプラスの働きをすることもあると考えられる。一方で、メリットばかりでなく、「ネットいじめ」や「SNS 疲れ」といった対人ストレス源にもなり得る。

本研究では、SM を利用する大学生を対象に面接調査を行い、SM 利用におけるストレスイベントによる心理的プロセスや対人的相互作用について検討する。また、ストレスイベントを通じて生じた自分自身への変化について、ストレス関連成長（stress-related growth）の観点から分析・考察を行う。

方 法

参加者 SM の利用に関する面接調査への協力依頼に応じた大学1年生9名（男性2名・女性7名，平均年齢18.3歳）。参加者は全て同じ大学の同じ専攻に所属している学生である。

調査手続き 2013年8月～11月の間に、第一著者による一対一の半構造化面接を行った。所要時間は1人平均25分程度であった。なお、面接前にインフォームドコンセントを行い、調査内容やプライバシー保護についての説明をし、面接調査参加および録音記録への同意書の記入を求めた。また、面接終了後には、ディブリーフィングを行い、面接参加者への心理的負担を確認し、謝礼を渡した。

質問項目 ①SM の利用でストレスに感じた出来事について

（面接調査の約1ヶ月前に別途質問紙調査を行い、その際に回答を得たことについて詳しく尋ねた）、②出来事前後の心理的プロセス・対人的相互作用、③出来事が自分に与えた変化、④SM の利用が友人関係にどのような影響を与えていると思うか

結果と考察

各参加者とも SM 上でのストレスイベントについて、2件ずつ回答してもらったが、ここでは Table 1 に1件ずつ掲載した。挙げられたイベントは多様であるが、メッセージを読んでいるにもかかわらず、何らかの返信を行わないこと（既読無視：参加者 E・G）や、多くの人が目にする SM 上での個人的なやりとり（参加者 F・I）による SM 独自のストレスが生じていることが明らかとなった。また、そのような SM 上でのネガティブな出来事から、相手とのかかわり方について気をつけるようになったという変化も見られたが、一方で、SM をそれほど重視しない人（参加者 E）はあまりプラスの変化を感じないように思われる。

付 記

本研究は、総務省「戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）」（課題名：ソーシャルメディアにおける青少年の人間関係抽出技術とネットいじめ予防への応用，研究代表者：吉田俊和）の支援を受けて行われた。

Table 1 各参加者の SM 上での出来事とその後の心理的变化・対人的相互作用，出来事によって自分に生じた変化

参加者	出来事	心理的变化・対人的相互作用	出来事が自分に与えた変化
A・女性	冗談のつもりでメッセージを送って相手を悲しませてしまった。	「悲しかった」と初めて言われたため、そういうことを言われるのは嫌だと感じた。	言葉で傷つけないよう考えるようになった／考えすぎて話していることが遅れる
B・女性	連絡不足で相手を一人にしまい、怒っていることを別の友人から SM で聞いた。	相手が好意を持っていない相手と自分が一緒にいたことにも怒っていることに気づいた。	自分が相手のことを考えているのと、相手自分が自分に対して考えているのが違う。
C・女性	以前は SM でメッセージのやり取りをしていたが、ある時から絵文字もなくなり、やり取り自体をほとんどしなくなった。	嫌われたかどうかはわからないが、ちょっとさみしいと思った。	自分がしたことがまずかったのか、見つめることになった。
D・女性	部活に関するミスで SM で釈明し、相手にも責任があるのに、聞き入れてもらえなかった。	相手との関係が悪くなった。	相手の対応から、こういう場合にミスをかばって欲しくない人なんだとわかり、逆に完璧にしようとするようになった。
E・女性	SM で返信せず（既読無視）、SM 上で怒られた。	返信が遅かったら絶交と SM 上に書かれ、冗談でも書いてほしくなかった。	この出来事でのプラス面はそんなにない。
F・女性	SM のグループ上で、関係ない人も見ている中で、けんかが始まる。	迷惑に感じる。特に口出しせず、ある人を責めて満足して終わる。	この人たちはこの人のことをこう思っているんだということが、対面よりはっきりわかる。
G・女性	予定を忙しい相手に合わせたのに、SM 上での反応がそっけなかった。	他の共通の友人に話した。	仲がいいからこそ、既読無視できると関係になったのかなと思った。
H・男性	友人が失恋し、SM 上で荒れた。	相手が自分のことをひがんだ。それを SM 上で謝罪した。	相手との距離が生じた。
I・男性	話し合いで自分の意見を出して押し付ける。SM 上では他の人も見ているので注意しにくい。	個人宛のメッセージで、「よくなかったのでは」と送る。	相手を見て、自分なりのこだわりを持っているが、周りの意見も参考にしたい方がいと学んだ。